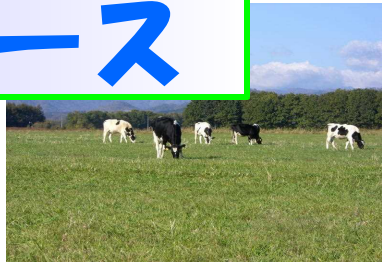
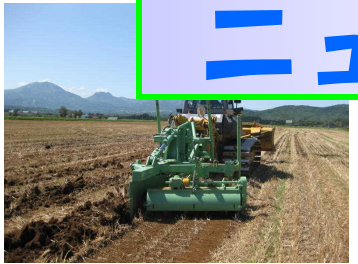


▼ 公社HP  
<https://www.adhokkaido.or.jp/>



# 農業公社 ニュース



(第9号)

新しい年がスタートして早1か月が経過しました。  
年が明けてから、道内では暴風雪・大雪により交通機関が大幅に乱れ、生乳廃棄等の農業被害が発生するなど厳しい冬となっている中、新型コロナウイルス感染症の第6波がかつてない速さで拡大し、「まん延防止等重点措置」が全道で適用となるなど、気の休まらない日々が続いております。  
農業公社ニュースの第9号をお届けいたします。

**■ 自衛隊機関紙「えんご」に当公社が掲載されました！**

一般財団法人 自衛隊援護協会が全国版として定期的に発行されている機関誌「えんご」(2022年1月号)の「企業の声」欄に、当公社・小田原理事長の寄稿「北海道農業の持続的な発展へのお力添えを」が掲載されました。

**企業の声**

**北海道農業の持続的な発展へのお力添えを**

公益財団法人 北海道農業公社  
理事長 小田原 輝和

小田原 輝和氏

▲ 自衛隊援護協会機関紙「えんご」における掲載記事

当公社設立からの歩み、本道農業・農村の活性化を支援する各事業の取組内容と概要について紹介させていただいておりますが、とりわけ当公社の主力業務である農用地開発整備事業の安定的な展開に向けて、自衛隊との連携による新たな人材確保の取組を進めていることについて掲載しているものです。

「本道の基幹産業であり、地域経済を支える農業の第一線で、ともに未来を切り拓いてまいりましょう」という強い思いで締めくくっています。

【総務部】

## ■ R4 新規就農対策の注目ポイント

～ 国費予算案における担い手関連対策の改正点 ～

昨年暮れに国が発表した令和4年度予算案は、現在国会で審議中ですが、担い手支援部が関連する新規就農対策で、いくつか重要な改正点があり、概要をご紹介します。

昨年の夏から、新規就農者支援の主要な柱「農業次世代人材投資事業」の見直しが大きな話題となりました。市町村が交付する「経営開始型」の上限額が1,000万円になり、当公社が交付する「準備型」ともども、全額国費を都道府県・地元が5割負担という案が当時報道され、議論を呼びました。

結果、新規就農者の施設・機械投資を国と地方の負担で支援する「経営発展支援事業」が創設されるとともに、「農業次世代人材投資事業」の名称はなくなり、「経営開始型」「準備型」は「経営開始資金」「就農準備資金」に変更されたものの、全額国費負担など制度の枠組みは維持されました。

また、これに先立って成立した令和3年度の補正予算にも、新規就農希望者の要望や相談経過等の情報を登録し、各都道府県・市町村の受入情報（相談窓口、研修、支援施策等）とともにデータベース化して、AIの活用でマッチングする仕組みや、各市町村に対策の窓口となる「就農コンシェルジェ」を配置する構想などが示されております。



どちらも、詳細な内容は今後国や道で決定されますが、当公社も各方面と連携して情報収集し、しっかり対応したいと思っております。

【担い手支援部】

## ■ 専門家が現地の経営課題に助言・指導

～ 経営相談会を全道で開催 ～

経営の法人化や農地集積、経営継承等の課題と向き合い、経営改善に取り組む農業者を支援するため、各分野の専門家と現地で個別に相談し、助言・指導を受けられる経営相談会を、道農政部と当公社の共催により、昨年11月から道内10カ所で開催しました。

地域ごとに、事前に予約いただいた案件について、相談所に登録されている税理士や社会保険労務士などの専門家と相談者が面談する形式です。

相談者からは「法人化のメリット・デメリットは?」「複数戸で法人化を

考えているが、留意点や手続きは？」「後継者に経営移譲するが、この機に法人化したほうが良いか？」とか、「労務管理や労働者確保についてどうしたらよいか？」「後継者が不在で、第三者継承を検討しているが、どうすべきか？」など、現場のリアルな課題が寄せられ、派遣された専門家から限られた時間の中で助言が行われました。

道内10カ所で30件の相談に対応しました。計画ではもう2カ所で、講義形式の経営セミナーと同時開催する相談会を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染状況が急拡大したため、やむなく中止せざるを得なかった次第です。

次年度以降も、こうした「現地の声」を直接お聞きする機会は、大事にしていきたいと思います。開催にご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。



▲ 専門家との面談



▲ 関係機関も出席して相談

【農業経営相談室】

## ■ 農場リース事業による施設改修工事が終了し、新規就農者が営農を開始します！

農場リース事業は、当公社が農地保有合理化事業で取得した離農農家の施設等を整備し、新規就農者に一定期間（5年以内）貸し付けた後、譲渡する事業です。

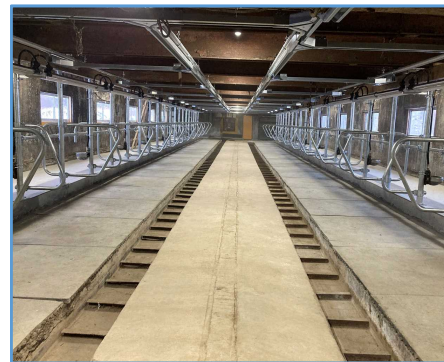
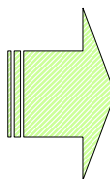
今年度実施の3地区については、昨年12月に施設の改修工事が終了するとともに、1月中に全地区で乳牛の導入も完了しており、本格的に営農が開始されています。

また、令和4年度実施予定の10地区についても、既に実施に向けた各関係機関との最終的な計画協議が大詰めを迎えており、今年度の補正予算（畜産クラスター事業）により取り進める計画としています。

《 令和3年度実施地区の改修事例 》



▲ 改修前



▲ 改修後

△ 主な改修内容 △

- 飼槽及びストールの改修
- 建具及び照明器具、ウォーターカップの交換
- パイプラインミルクカー（一式）及びバルククーラー（4,000L）の導入

【農用地部】

■ 草地整備機械のICT化の取組を推進

～ 草地整備建設用トラクターでは初めて「自動操舵システム」を導入 ～

当会社では、主力施工機械である建設用トラクターの新車導入を順次進めています。令和2年度導入以降の新車にはオペレータの作業軽減と施工品質の向上を目的として、「自動操舵システム」を標準搭載しています。

自動操舵システムを利用するにあたり、施工中はリアルタイムでGPSの補正信号を取得する必要があります。当社が施工する圃場は、全道各地で農協などが整備している基地局のカバーエリア外の場所も多数存在します。そのため、携帯電話回線網を利用したインターネット経由による取得（NTrip）方式を採用し、施工を実施しています。

自動操舵システム導入により、オペレータの方から「作業の微調整作業が減り、作業が楽になった」「熟練技術者以上の作業ができる」などの感想が出されています。

一方、課題もあります。起伏の激しいエリアや携帯電話基地局から遠いエリアでは、圃場内でも携帯電話回線網が部分的につながらず、GPSが捕捉しづらく、信号捕捉の確認や手動作業への切り替えなど手間が増えてしまう場合があります。

このような知見を集約しながら、使いどころを見極め、熟練者から新人までオペレータ全員が利用できるようにし、施工品質の一層の向上に努めたいと考えています。



▲ 自動操舵システム搭載のトラクター内

▼ 自動操舵システムにより施工した圃場



【農場整備部】

## ■ 『年末年始無災害運動』による無事故への取組

当公社職員が年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるよう、中央労働災害防止協会が主唱する『年末年始無災害運動』に参加しました。

併せて、引き続き、高年齢職員が安心して安全かつ健康的に働くことができるよう、『エイジフレンドリー職場（高齢者の特性に配慮した働きやすい職場）づくり』、慌ただしい年末年始の中で忘れがちな作業手順や保護具の点検などを怠らないよう、『労働安全衛生ルールを守ろう』にも取り組みました。

▽ 下記ポスターを当公社職場内に掲示して職員に周知

▼ 年末年始無災害運動



▲ エイジフレンドリー職場づくり



▲ 労働安全衛生ルールを守ろう

【統括労働安全衛生委員会】

## ■ 十勝育成牧場の肥育牛が初の全国大会へ！

2月24～25日に鹿児島県で開催される「令和3年度 現場後代検定 合同調査会」に、北海道内から「北美津久（ジェネティクス北海道）」産子3頭が選抜されました。

そのうち1頭に、当牧場で生産・肥育した「りよ639」が選ばれ、2月中旬に出荷予定となっております。鹿児島県まで長い道のりですが、まずは出荷の日までしっかりと管理して上位入賞をめざします。

▽ 令和3年度 現場後代検定 合同調査会

1 会期

令和4年2月17日(木)もしくは18日(金) 集荷  
 21日(月) 搬入、個体確認、生体調査  
 22日(火) と畜前体重測定、と畜、解体、冷却  
 23日(水・祝) 冷却  
 24日(木) 格付、枝肉調査、セリ、枝肉研究会  
 25日(金) シンポジウム

2 開催場所

- 枝肉調査  
 (株)JA食肉かごしま南薩工場 (鹿児島県南九州市知覧町)
- 枝肉研究会及びシンポジウム  
 アートホテル鹿児島 (鹿児島県鹿児島市)



▲ 関係機関による個体確認及び生体調査

▲ エコー検査の様子

「りよ639」

【十勝育成牧場】

公益財団法人 北海道農業公社

本所・支所・牧場所在地

● 本所 ①～⑩ 支所・牧場



**本所** 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23  
 TEL.011-241-7551 (代表) FAX.011-271-3776  
<https://www.adhokkaido.or.jp>



監査室 TEL.011-241-7557	総務部 TEL.011-241-7551	担い手支援部 TEL.011-271-2255
農業経営相談室 TEL.011-522-5579	農用地部 TEL.011-241-5751	農村施設部 TEL.011-241-5701
農場整備部 TEL.011-241-7554	畜産部 TEL.011-241-5761	統括労働安全衛生委員会 TEL.011-241-7557

支所・牧場

- ① 道央支所  
〒068-0025 岩見沢市5条西5丁目2番地1 空知農業会館  
TEL.0126-23-2178 FAX.0126-23-4260
- ② 道南支所  
〒040-0073 函館市宮前町33番13号 道南農業会館  
TEL.0138-44-5600 FAX.0138-44-5615
- ③ 日胆支所  
〒053-0021 苫小牧市若草町5丁目5番3号 日胆農業会館  
TEL.0144-32-8171 FAX.0144-32-3215
- ④ 十勝支所  
〒080-0013 網走市西3条南7丁目14番地 農協津ビル  
TEL.0155-24-0254 FAX.0155-24-0261
- ⑤ 釧路支所  
〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10番地 釧路農業会館  
TEL.0154-22-1538 FAX.0154-25-4798
- ⑥ 根室支所  
〒086-1006 根室市中央町東6条南1丁目2番地 根室農業センター  
TEL.0153-72-3296 FAX.0153-73-2080
- ⑦ 北見支所  
〒090-8650 北見市とん田東町617番地 農業管理センター  
TEL.0157-25-2826 FAX.0157-25-9188
- ⑧ 上川支所  
〒070-0030 旭川市西下通4丁目2番5号 JA上川ビル  
TEL.0166-25-2613 FAX.0166-26-3464
- ⑨ 道北支所  
〒097-0001 稚内市末広4丁目2番31号 宗谷農業会館  
TEL.0162-33-3321 FAX.0162-33-7339
- ⑩ 十勝育成牧場  
〒089-2261 広尾郡大樹町字尾田708番地  
TEL.01558-7-5121 FAX.01558-7-5159